

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492700032	事業の開始年月日	平成18年10月1日
		指定年月日	平成18年9月15日
法人名	木村貿易有限会社		
事業所名	三浦市総合福祉センターグループホーム 第二		
所在地	(238-0102) 三浦市 南下浦町 菊名 1258-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	令和6年1月13日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご自宅での暮らしをそのままに美味しい食事をしてゆっくりお風呂に入り毎日を過ごせます。畑など自然に囲まれ、三浦市を360度見渡せる景観の中で季節の移り変わりを感じながら生活できます。食事は栄養管理されたものを提供します。ご家族の負担を減らす為、通院介助も積極的に職員がお手伝いします。24時間医療連携がとれ、安心できます。利用料も低価格となっております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年2月27日	評価機関 評価決定日	令和6年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急本線「三崎口」駅よりバスに乗車し、バス停「引橋」から徒歩3分ほどの所にあります。建物前は、東京湾、相模湾、富士山が臨める環境です。近隣には横須賀消防局三浦消防署や、大型スーパーがあり、同建物には三浦市社会福祉協議会があり社会資源に恵まれた環境となっております。

<優れている点>

職員とのコミュニケーションを大切にしています。職員との会話を日頃から心がけています。楽しみながら仕事ができるように明るい声掛けを意識しています。職員の誕生日を把握し、職員が気を遣わないほどのお菓子のプレゼントや、職員の子どもへ将棋盤をプレゼントするなど、職員に愛情を持って接しています。職員が、楽しく仕事ができることで利用者へも愛情を持って接してもらえるように、利用者へ寄り添い支援を行えるようにと考えています。管理者は隣接3つの建物を毎日回り会話をすることで利用者の様子を把握しています。

<工夫点>

機械浴を完備していないユニットの個浴が跨げない利用者の「湯船に浸かりたい」との希望にも応えています。入浴日には他ユニットが完備しているイスに座って浴槽に入れるリフト浴に出向きます。リフト浴を使用することで安心して湯船に入ることができています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	三浦市総合福祉センターグループホーム 第二
ユニット名	A棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時に作成した理念を事業所内に掲示し、理念の共有を図っている。	「職員は愛情を持って利用者に接し、利用者に夢を持ってもらいたい。利用者の残りの人生は色々な事をして過ごして欲しい」との思いで日々の支援に努めています。利用者に寄り添い、利用者のとなりにいて欲しいと職員に伝えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営委推進委員に民生委員に入って頂き、地域との繋がりをもっている。社会福祉協議会のイベントには積極的に利用者様は参加されている。月末には新聞販売店の方が古新聞を持ってきて頂き、利用者様がオムツ廃棄の際に使用できる様に折って頂いている。	同一建物内にある三浦市福祉協議会主催の「地域をつなぐはつらつフェスタ」に利用者が参加しています。ソーラン節やフラダンスなどの観賞や、出店のホットドッグや三崎名物のマグロ料理を食べるなど、地域の人と交流が持てる催しに参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ウクレレボランティアや傾聴ボランティアなど地域での活動の場の提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	市の職員、包括のメンバー、民生委員の方たちから色々なご意見を頂き、サービス提供に繋げている。	利用者、三浦市高齢介護課職員や、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得ています。民生委員から、自身が受講した研修内容より「利用者に役割を持ってもらおうと良い」などの意見をもらっています。地域包括支援センター職員からは地域の行事情報を得ています。	運営推進会議構成委員の家族の参加を得られていません。家族へ案内を出すことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の高齢介護課の職員に運営推進委員に入ってもらい、意見を気軽にもらえるようにしており、生活福祉課職員ともこまめに連絡を取り合い入居相談にも積極的に答えている。	三浦市グループホーム連絡会に所属しています。3ヶ月に一度、他施設の情報や、運営指導などの情報交換の場となっています。三浦市高齢介護課に滞納者などの運営面も相談しています。提出書類はメールや郵便ではなく直接窓口提出し、顔の見える関係を作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員同士の引継ぎ等により、利用者様の状況の変化を把握しやすくしており、状況にあったケアを行っている。定期的な研修の実施で現在拘束ゼロを達成している。	身体拘束ゼロの手引きで知識を学んでいます。3ヶ月に一度、身体拘束適正化委員会を開催しています。利用者の支援方法に疑問を感じた時は、管理者にすぐに相談できる体制を作っています。	省令に基き、早急に身体拘束廃止の研修を実施することを期待します。身体拘束適正化委員会の会議内容を職員に周知することを期待します。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修等に参加し、虐待についての認識をもち、虐待に繋がらないケアを行っている。	虐待などの事件が起きた時は、職員にニュースを伝え、日頃から虐待に対する意識付けを行っています。職員の虐待に繋がる言動を見かけた時は管理者はその場で注意をしています。何度でも繰り返し伝えることで改善するようにしています。	来年度から義務化になる虐待を検討する委員会及び研修の準備を期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	当グループホーム全体で6名の利用者様に後見人（補佐を含む）が付いており、成年後見制度についても理解しあえるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談の時点より、入居後の生活の不安や疑問点について説明をし、契約時にも詳細に本人及び家族に対して説明を行い理解を深めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様に面会に来られた家族様に近況の説明をし、状態を把握してもらい要望等も聞くようにしている。また電話でもこまめに家族に連絡するようにしている。	家族からの好意で老朽化した廊下を修理してもらったこともあります。利用者の要望から、居室で水分が取れるように居室用のペットボトルを毎日用意しています。将棋が趣味の利用者には管理者が将棋盤を用意しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見を聞くようにする為、その都度に面談等を実施して職員の思いや状況を把握するようにしている。	職員の意見の中で、購入して欲しいものなどは、全て法人に挙げています。炊飯器や掃除機などはすぐに反映しています。管理者は毎日3つのユニットの建物を回り、利用者や職員に話しかけ意見が言いやすい雰囲気を作っています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者や職員の現在の状況や思いを把握するように努めている。	給与の仕組みを理解できるように運営状況を説明しています。勤務曜日を固定にすることで個々の予定が立てやすい環境を作っています。職員の誕生日には管理者からお菓子をプレゼントしたり、職員の子どもの将棋盤をプレゼントするなど、コミュニケーションを大切にしています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勉強会の実施、外部研修への参加、その都度の事例に対する説明を行うなど認知症ケアに対する理解を深めている。	認知症基礎研修の受講費は法人負担で受講しています。未受講の職員にはこまめに声をかけ受講を促しています。認知症対応型サービス事業管理者研修の受講や、介護福祉士実務者研修の資格取得を促すなど、職員一人ひとりの能力に合わせた研修を伝えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	三浦市グループホーム連絡会の定例会への出席をし、それぞれのホームの現状や問題点を把握し、当ホームのサービスの質の向上へと繋げている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談の時点より、本人や家族との話し合いで性格や生活の様子などを把握し、入居後に不安にならず生活が送れるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談の時点より、本人や家族との話し合いで性格や生活の様子などを把握し、入居後に不安にならず生活が送れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員同士の引継ぎ等により利用者様の状況の変化を把握しやすくしており状況にあったケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員との気軽な会話や、日常生活の中で出来ることを職員と一緒にすることにより、同じ生活をする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時などに利用者様の食事介助などを家族にお願いして、現在の本人の状況を理解してもらえるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会の時間を細かく決めずにいつでも面会に来やすいようにしている。また知り合いからの電話の取次ぎなども出来る限り行っている。	入居前からの新聞購読の継続や、将棋が趣味の利用者に将棋盤を用意しています。将棋の相手ができるようにと将棋を覚えた職員もいます。毎年桜の花見に出かけています。去年はコロナ禍により車中でお茶をしながらの花見でしたが、今年は利用者皆で花見がしたいと考えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の利用者様との会話などで利用者様同士の関係を把握し、お互いが良い関係を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後も、相談にのれるように努めてその後の生活への支援の相談も受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の利用者様との会話の中で、思いや希望を出来るだけ把握し、思いや希望に沿った生活ができるように努めている。	入居時の家族からの情報を足がかりに話しかけを積極的に行っています。また施設長は2事業所を自ら回り、直接利用者と対話し思いや意向の把握に努めています。意思表示の困難な利用者には本人の何気ない動作や反応を注視し判断するように心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居申込書に本人の生活歴や嗜好等の記入欄があり、家族から本人の在宅での生活状況を聞くことで本人の生活について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様にこまめに声かけをし、また居室での状態を把握し、現状の状態を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当ケアマネージャーが中心となり、利用者様また家族の要望を聞きサービス計画を作成し利用者様の要望に即したサービスを提供している。	入居時のアセスメントと医師のアドバイスを基にケアプランを作成しています。モニタリングを3ヶ月ごとに実施し、介護保険の更新時に合わせて見直しを行っています。医療機関の訪問診療時に状況の変化があれば、都度ケアプランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員がいつでも見ることができるように記録を配置し、情報の共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院が必要になった場合、家族に代わって通院等もできるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で活動しているボランティア等がホーム内で活動できるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	24時間、365日いつでも電話で相談ができアドバイスをもらえるようにしている。また随時往診もお願いできるようにしている。	全利用者が協力医療機関の訪問診療を受けています。内科は月1回の「まとめ往診」と随時居室で行う「個別往診」があり医師と看護師はほぼ毎日来訪しています。訪問看護師が週1回利用者の健康管理を行っています。希望すれば訪問歯科や精神科の往診もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の日々の変化を看護師に相談でき、アドバイスをもらえるようにしており、適切な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も病院の相談室等に定期的に連絡をし、病院での状態の把握に努め、退院後にホームでの生活が無理なく送れるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化する可能性が出てきた場合、早い段階で、家族等と話し合うようにしてその後の生活の送り方について話し合う機会を設けており、方針の共有をして支援するようにしている。	終末期に当たっての指針があります。重度化した場合は、医師が家族または後見人に直接電話入れ状況の説明を行い今後の方針を決めます。職員は医師の指示に従い支援に当たります。なお看取りに至った時は看護師が在宅酸素や点滴の対応を毎日行います。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを作成しており、それに沿って職員は行動し管理者に報告したり対応することができるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	社会福祉協議会が主催する防災訓練に年2度参加させてもらい、災害時の対応と避難について職員が対応できるようにしている。	災害時のマニュアルを整備しています。社会福祉協議会主催の全館7事業所合同の防災訓練に年2回参加しています。避難訓練が中心ですが、消火器の使い方などの指導もあります。「災害対策備蓄リスト」に沿って2事業所纏めて水や食料の備蓄をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者様の人格やプライバシーを尊重して声かけを行っている。	利用者の呼称は原則「さん付け」ですが、ケースによっては親しみを込めた声掛けをする場合もあります。排泄時や入浴時のカーテンや居室へ入るときのノックは必ず行うよう徹底しています。施設長は、不適切な行為には、その場での注意喚起を実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と利用者様が気軽に会話できる雰囲気できており、利用者様から希望等が言えるようになっていて、職員もその希望に対し、どのようにしたら希望が叶うかを利用者様と話し合いながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の多くが居室で自分の時間を大切にしながら生活しているが、その中で何か希望や要望があるか把握できるように声かけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様が希望する化粧品等を購入して本人が満足できる身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の中で可能な人は食事後の食器をさげてもらうなど、片付けを一緒に行っている。	献立と食材は外部委託をしています。主食のご飯は本館で2事業所分纏めて炊き各事業所に分配しています。嚥下困難者へは事前にきざみなどは行わず形を残して、食事をする際に職員がきざむなどして口に運び、食事の楽しさを失わないよう支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの咀嚼や嚥下の能力に応じた食事形態や食事量を変えて食べやすいようにしている。水分摂取についてはお茶やジュースなどで十分な量が摂れる様にし、記録にも残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者様一人ひとりの能力に応じて、本人ができる場合は歯磨きをしてもらい、できない人は介助で口腔ケアを毎食後おこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄についての声かけをして利用者様がトイレを忘れないような工夫をしている。また、利用者様の排泄のパターンや習慣を把握するように努めている。	職員はタブレットに利用者の方々の排泄記録や水分補給の情報を入力し、排泄パターンを把握しています。利用者へは早めの声掛けを行いトイレでの排泄を促しています。なお失敗したときはさりげない声掛けを行い居室で対応し、羞恥心への配慮をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	基本的には看護師に排便コントロールをしてもらい、排便チェック表を作成し管理を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望に合わせることはできていないが、火曜日と金曜日が入浴日になっていて、利用者様も楽しみにしている。また入浴日に入浴できなかった場合は他の日に入浴してもらうようにしている。	火曜日と金曜日の週2回の入浴が基本ですが、利用者の状態に合わせて臨機応変に対応しています。機械浴を利用し出来るだけ湯船に入るよう支援していますが、清拭やシャワー浴の対応もしています。入浴剤で温泉気分を味わう工夫もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様は居室で生活する時間が多くその時々状況に応じて休息されている。また夜間も居室でテレビなどを観ながら好きな時間に眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局で毎週金曜日に1週間分の薬をセプトしてもらっている。薬に関しては薬局からの薬の働き・副作用等が記入されている表で職員は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	塗り絵・カラオケ・トランプなどをして気分転換を図っている。利用者様によっては洗濯物干しや畳んでくれる利用者様もいられる。自主的に参加して下さる方にはお願いしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の支援があれば外出は自由にできる様にしている。施設の周りには天候や体調が良ければ散歩くらいはできる様に支援している。	施設に居ながらにして、広大な畑や豊かな自然、また東京湾や相模湾、富士山が一望できる稀有な環境からか、一部の家族または後見人の来訪時に近くの花見や喫茶店に行くことはありますが、事業所としての外出支援は行われていません。	ちょっとした散歩や外気浴から始め、外出が当たり前になるような支援が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症施設ということもあり、お金は無くした取られた等のトラブル回避もあり持たせる事はしていません。欲しいものがあつた場合は事務所に家族からお預かりしているお金で希望に答えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかける希望のある利用者様には電話をかけられるように支援している年賀状を出したい利用者様にはそのお手伝いをしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間には鉢植えなどの観葉植物を置いたりピアノなどを置いてあります。共有スペースの窓からは房総半島を眺める事もでき、居心地良く過ごせるようにしています。	本館・A棟・B棟で広さや設備面の違いはありますが、いずれも既存の建物を改装し造られており、随所にバリアフリー化など介護施設への工夫が見られます。なお3棟とも、手摺の設置や動線の確保など安全面の配慮と、暮らしとは無縁の飾りつけを無くし家庭的な雰囲気を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にはソファがあり、利用者様同士で会話ができる様に工夫したり、一人になりたい時にはそれぞれの居室で過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人が居心地よく生活できる様に本人が大切にしていたものなどをもってきてもらうようにして出来るだけ落ち着いて生活できるように工夫している。	居室は3棟ごとに広さや形は異なりますが、いずれも利用者に合わせて造りにしています。畳の部屋や、医療の指示でベッド以外は置かず利用者の状況を見守る部屋もあります。掃除やリネン類の洗濯と交換は職員が曜日を決めて行い清潔の保持に努めています。	「も」に変えましたが、畳か医療の部屋の2択であれば、「が」のままの方がいいです。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内には手すりを配置し、邪魔になるものは配置を控え安全に自立した生活ができる様に工夫している。		

2023年度

事業所名 三浦市総合福祉センターグループホーム第二
 作成日：令和 6 年 4 月 8 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ボランティアなど地域の活動をされている人との繋がりが薄れている。	3か月に1回はボランティアによるアクティビティの開催を実施する。	ボランティア団体への関係性を構築しイベントの開催をできる様にしていく。	6ヶ月
2	11	利用者様のご家族の面会が偏っている。面会に来てくれない利用者様が多くいる。	家族等がいる利用者様への面会が3か月に1回くらいは来て貰える様にしていく。	利用者様の状態等をご家族にこまめに連絡しできるだけ来やすい環境を構築する。	6ヶ月
3	16	防災訓練を年2回、社会福祉協議会と実施しているが健常者に限定して行っている為に実際に災害があった場合に不安である。	健常者以外の避難も想定して実施できる様にする。	日頃から車いすでの避難を想定し研修等を実施する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月